



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—高安まちまちアップルやアマゾン下落でナスダックは下落—

	前週終値	10月24日	10月25日	10月26日	10月27日	10月28日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	18,145.71	18,223.03	18,169.27	18,199.33	18,169.68	18,161.19	+15.48	+0.09%
騰落幅		+77.32	-53.76	+30.06	-29.65	-8.49		
S&P500	2,141.16	2,151.33	2,143.16	2,139.43	2,133.04	2,126.41	-14.75	-0.69%
騰落幅		+10.17	-8.17	-3.73	-6.39	-6.63		
ナスダック総合指数	5,257.40	5,309.83	5,283.40	5,250.27	5,215.98	5,190.10	-67.30	-1.28%
騰落幅		+52.43	-26.43	-33.13	-34.29	-25.87		

＜先週の概況＞

先週の米国市場でダウ平均は週間で15ドル高と小幅に続伸しました。大統領選や雇用統計などの重要経済指標の発表を前に方向感はずぶく、前週に引き続き小動きの日が続きました。

ハイテク株比率の高いナスダック総合指数は、時価総額の大きいアップル（AAPL）やアマゾン・ドット・コム（AMZN）が下落したことなどを受け、1.3%安と下落しました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



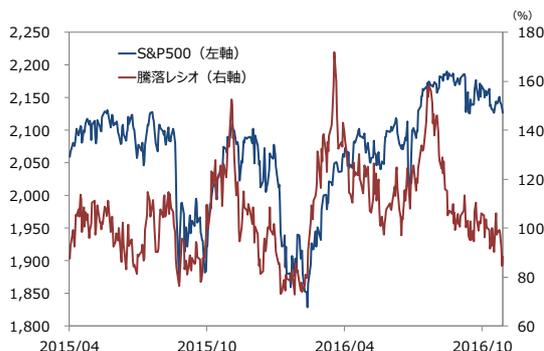
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	16.7	3.1	2.7%
S&P500	17.9	2.8	2.2%
ナスダック総合指数	21.8	3.5	1.2%

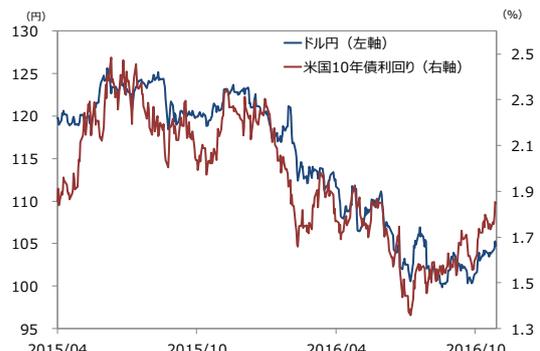
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2016年10月28日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

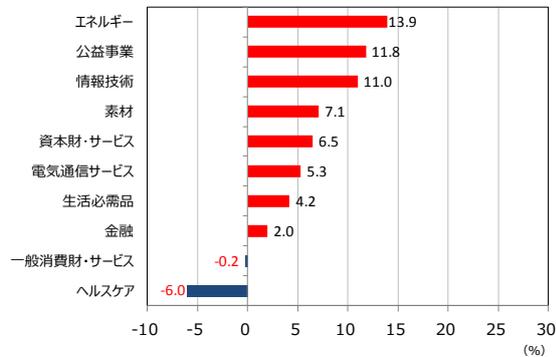
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

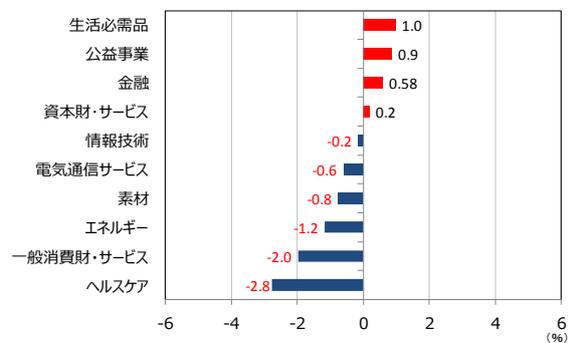
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (10/24-10/28)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
BA	ボーイング	5.4
UTX	エナジー・テクノロジー	3.2
PG	プロクター・アンド・ギャンブル	3.0
CVX	シェブロン	2.5
WMT	ウォルマート・ストアーズ	2.4
IBM	IBM	2.0
JNJ	ジョンソン・エンド・ジョンソン	1.7
CSCO	シスコシステムズ	1.5
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	1.4
JPM	JPMorgan Chase & Co.	0.9

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング (10/24-10/28)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
MRK	メルク	-3.9
UNH	エナジー・ヘルス・グループ	-3.5
CAT	キャタピラー	-2.8
AAPL	アップル	-2.5
HD	ホーム・デポ	-2.4
MMM	3M	-2.2
XOM	エクソンモービル	-2.1
MCD	マクドナルド	-1.6
AXP	アメリカン・エキスプレス	-1.4
INTC	インテル	-1.2

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

<上昇>

ボーイング (BA) は一株利益が市場予想を上回ったことが好感され、週間で5%超の大幅高となりました。また、決算が市場予想ほど悪化しなかったシェブロン (CVX) は2.5%高としっかりでした。

<下落>

今後の販売見通しが冴えなかったアップル (AAPL) が軟調だったほか、決算で売上高が市場予想を上回って悪化したエクソンモービル (XOM) も2%超下落しています。

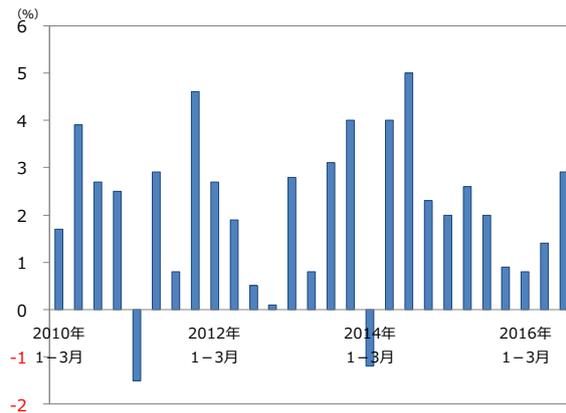
先週発表された主な経済指標

7-9 月期 GDP 速報値（前期比年率換算） +2.9% 市場予想 +2.6% 4-6 月期 +1.4%

28 日に発表された 7-9 月の GDP 速報値は前期比年率換算 2.9%の伸びと、市場予想を上回る堅調な内容でした。

堅調な GDP 成長率を確認できたことで、12 月利上げに向けたハードルをまた 1 つクリアしたと言えます。

米GDP成長率の推移（前期比・年率換算）



（出所）Bloombergデータよりマネックス証券作成

今後発表される主な経済指標

連邦公開市場委員会（FOMC）

11 月 1 日から 2 日にかけて連邦公開市場委員会（FOMC）が開催されます。今回も利上げ実施が議論されるとみられますが、今月の会合では利上げは見送られ 12 月の会合での利上げ実施が示唆されるのではないかと予想されています。その理由は 1 週間後に米大統領選を控えていることが大きく、無用な混乱をマーケットに与えたくないという思惑が働きやすいとみられます。

マーケットビューー大統領選の不透明感が増し上値追いつとはなりにくい展開かー

先週の米国市場はアップルの下落などが重石となり、上値が重い展開でした。また、金曜日に FBI がクリントン大統領候補のメール問題について新たな調査を行うと表明し、大統領選を巡る不透明感が高まり、市場への冷や水となりました。

現時点でこの問題がどの程度広がりを見せるのか不透明ですが、不透明だからこそ市場はリスクオンになりづらいと思われます。足元のマーケットはクリントン氏が大統領選に勝利することを前提にしていたとみられ、メール問題が再燃しクリントン氏が大きく支持を落とすようなことがあればマーケットは警戒モードに入り、ダウ平均の 1 万 8000 ドル割れもありうると思っています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会